

大葉

使用産地：茨城県、愛知県など

使用目的：

大葉は年間を通じて栽培・出荷される作物のため、施設内が空いている期間が非常に短くなっています。同一作物の栽培で土壌微生物相が単一化しやすい環境にあるため、栽培体系に合わせた土作りを行なって行く必要があります。

使用方法：

① 植え替え時

植え替えを行なう際に、コフナ1号もしくはコフナMPを年に10～20袋/10a施用。
※夏場の植え替え時には、コフナ施用後より10日～2週間空けて植え付けしてください。
間隔を空けることが出来ない場合は、コフナ施用量を5袋/10aまでにして下さい。コフナ施用により土壌中の有機物分解が一時的に促進されるためガス障害の恐れがあります。
特に前作の残渣や堆肥を入れるときには、必ず期間を空けてください。

【事例：茨城県】

育苗：播種から約1ヶ月で定植

収穫：定植から約1ヶ月で収穫開始。収穫期間は6～7ヶ月。

コフナ：収穫終了後、残渣とともに20袋/10aをすき込みます。

その他、ゼオライトや海草資材・総合微量要素資材・元肥も同時に投入します。

(一農家で、コフナ・肥料散布は年6～7回)

② コフナ・ソーラー法 https://cofuna.jp/scene_howtouse/solar/

大きく生育ムラが生じ始めている圃場で、夏場に関しては、1ヶ月程度にてコフナ・ソーラー法を実施してください。冬場よりも確実に土壌改良を進めます。

③ 土壌消毒剤との体系処理 https://cofuna.jp/scene_howtouse/system/

センチュウ害の恐れがある場合、土壌消毒剤との併用は難しい為、一番センチュウ害の恐れがある作の前に土壌消毒剤（殺センチュウ剤）を使用し、次の植え替え時にはコフナを元肥と共に施用（基本的に10日～2週間程度開けて定植）

④ 生育期間中の管理

■コフナの追肥 1

近年は追肥を液肥にて行なうことが多く、マルチング有無の都合にもよりますが、追肥時にコフナを散布してください。特に夏場に使用量が少ない場合、冬に向けてコフナを散布することにより、通常の土壌改良効果に合わせて地温効果も得ることが出来ます。

■コフナの追肥 2

冬場の湿度対策として、コフナ 1号：米ヌカを 1：5 程度に混和し通路に撒きます。
土壌改良＋地温＋施設内部の吸湿に繋がります。

■コフナで追肥が出来ない場合

追肥でのコフナの散布が出来ない場合、短期的ですが、糖蜜（廃糖蜜・黒糖液肥等）を水で薄めて灌注する方法を取ることも出来ます。冬場の灌注は地温が下がりやすくなりますが、糖分を合わせて灌注することにより、コフナをはじめとする土壌中の微生物が、活性化し地温の確保に役立ちます。

